

# 婚就活の提案 ～産学官によるライフプランニングイベント～

多摩東京大学生会

竹田将暉<sup>1)</sup>、富士太樹<sup>2)</sup>、大石健人<sup>3)</sup>

指導教員 高永喆<sup>4)</sup>

- 1) 帝京大学教育学部 教育学科
- 2) 桜美林大学リベラルアーツ学部
- 3) 首都大学東京経営学部 経営学科
- 4) 拓殖大学客員教授研究員・韓国統一振興院専任教授

少子高齢化が進むと高齢者人口が増え、働き手が減る。八王子の人口は年々、減少している。その被害が過剰に表面化する前に早期に対策を打つべきだ。私たちは未婚晩婚化の原因を結婚意識の低下ととらえ、結婚意思を有する若者が早い時期から結婚に関心を向ける取り組みが少子高齢化解決のキーになると考えた。そこで生まれたのが仕事と結婚を一体として考える「婚就活」の発想である。私たちは、株式会社IBJと「ライフプランニング」イベントを共同開催し、「婚就活」発想を具現化した。その成果を基に産学官によるライフプランニングイベントを提案する。

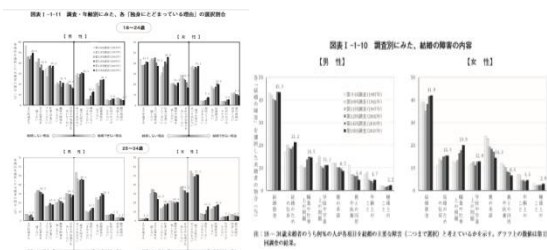
キーワード：少子高齢化，未婚化，晩婚化，自然減，

## 1. 問題提起

八王子の人口は減少している。平成 22 年の人口は平成 22 年の人口の半分になると推測されている。自然減を食い止めることが八王子市における人口回復の課題である。全国的にも結婚率は低下の一途を辿っており、少子化も進んでいる。しかし、未婚成人の約 8～9 割は結婚意思を有する。(平成 27 年八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略) この 9 割の結婚意思を結婚率につなげ、サポートすることが重要だ。以下の図 I 図 II (国立社会保障・人口問題研究所「第 15 回出生動向基本調査」)にもあるように未婚者の多くが、結婚の障害として理想の相手と巡り合わないことや結婚資金や住居などが挙げている。

図 I

図 II



結婚資金や住宅について具体的準備する事、理想の結婚相手との出会う事は、若いうちから結婚

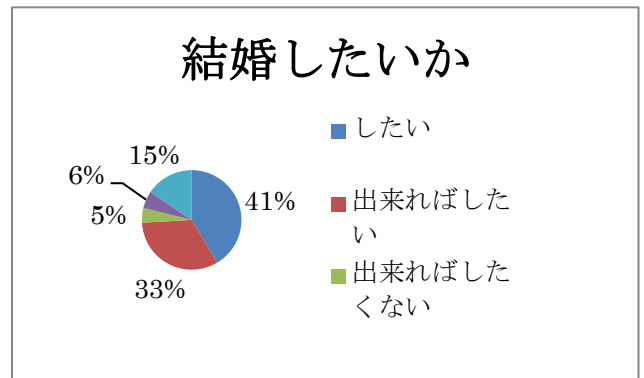
に向き合いイメージできる環境をもつことが重要になる。一方で、若い世代(18～24歳)は、上記調査(図 I)では結婚に対し、「まだ若すぎる」と回答した。そこで私たちは、若者に上記のような環境を提供する必要があるか知るべく、八王子の大学生にアンケート調査した。

## 2. 調査結果及び考察

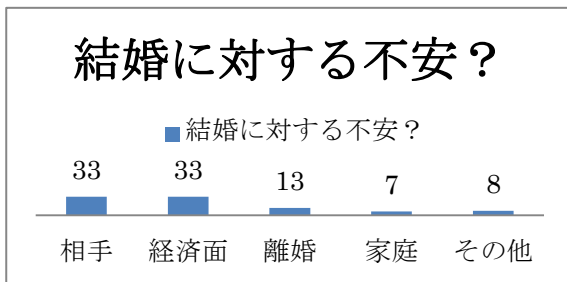
### 【調査概要】

- 集計期間：2018年5月～2018年7月
- 対象：帝京大学、首都大学東京、明星大学、中央大学の1～4年生(総計251人)
- 回収方法：講義前にその担当の教授に許可をもらい、受講生にアンケートを行った

### 【結果】図 III



図IV



多くの大学生は結婚希望を持ち（図Ⅲ）、「相手が見つかるか」「経済面はどうするか」等の不安を持っている。（図Ⅳ）ここから、若い世代に結婚に向き合う機会を提供する需要を見いだせる。

一方、若い世代は、上記調査で（図Ⅰ）結婚より「学業（仕事）に打ち込みたい」と回答した。そこで仕事と結婚を両方考えたい若者の願いに応える「婚就活」を発想した。「婚就活」とは仕事と結婚を一体として考えることである。家庭生活のための貯蓄は、仕事の収入と不可分な関係にある側面がある。両者を同時に考えることで、両者をより建設的かつ具体的にイメージできると考えた。私たちは「婚就活」の発想を、結婚と仕事の計画を一体として行う「ライフプランニング」に具現化し、下記イベントを通してその効果を検証した。

## 2. 検証

図V



図VI



私たちは、株式会社IBJ(2015年東証一部上場)と連携し、若者(20~35歳)がライフプランニングを通して結婚と仕事に向き合うイベント「婚就活シンポジウム」を開催した。ライフプランニングの方法は、表(図VI)のように年数を基準にして、キャリアと家庭生活における「夢」また、特定の年数が経過すると迎えるライフイベント(介護や子供の学校入学など)を描いていく。それらの「夢」やライフイベントにかかる費用も割り出す。そして計画した夢やライフイベントやそれらにかかる費用に対し、現在、どのような準備が必

要かを言語化した。

## 3. 結果

ライフプランニングによって「経済的な不安」が和らぎ、結婚や将来に前向きになれる効果がみられることが分かった。

✓アンケート結果(22人中)

→経済的な不安が和らいだ(14人)

(イベント実施前、15人が「経済的な不安がある」)

→結婚に対する不安が和らいだ(5人)

→自分の将来を考えてみようと思った(19人)

## 4. 考察

結婚意思を持ち、2, 3人の子供を授かりたい若者の存在(平成27年八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略)は、現在の結婚率及び出生率とは差がある。その理由は、当事者が経済面や行政サポート(子育て等)に対する無知からくる、計画性の欠如にある。学生など、若いうちから、将来のイメージを持たせ、時間軸に沿って、準備すべきことを自覚する。将来への準備体制を作り上げることが、「結婚」や「出産」という未来を作り上げる。社会でその体制をつくることをサポートすることが少子高齢化問題解決のカギとなる。

## 5. 提案

18~24歳の未婚及び、既婚の若者対象にした「ライフプランニングイベント」を八王子(広報、地域の情報提供、行政サービス紹介)+大学生(若年層への啓発)+株式会社IBJ(ライフプランのノウハウ)の三者が協力して開催する。

✓メリット

- 自治体の情報を活用したプランニングが出来れば、若者に結婚意識上昇や不安解消等の効果を及ぼすだけでなく、八王子の魅力や、既存の行政サービスを知らせてもらえる契機にできる。

- 自治体職員と企業職員、市民の交流の場となり、地域活性化につながる

- 大学生が多い八王子は他地域より多くの若者にアプローチが出来、国益に貢献できる。

- 内閣府による「地域少子化対策重点推進交付金」を受給できる可能性がある。